

# 『集まりの学としての社会学』

後藤隆著 — 光生館 2009年



推薦者

## 後藤 玲子 (ごとう・れいこ)

立命館大学先端総合学術研究科教授。1958年生まれ。専門は経済哲学。81年一橋大学法学部卒業、90年同大学経済学部卒業、92年同大学大学院経済学研究科修士課程修了、98年同大学大学院経済学研究科博士課程修了。その間、95年一橋大学経済学部助手(特別研究員)、96年社会保障研究所(現国立社会保障・人口問題研究所)研究員なども歴任。その後、2002年立命館大学政策科学部特別契約教授などを経て04年から現職。主な著書は、『正義の経済哲学—ロールズとセン』(東洋経済新報社)など。

本書は、「社会」とは何かを考え抜かれたきわめて啓発的な書である。

消費の醍醐味は、そこに売られているものを、自分の好みで、こっそり買うことだろう。「貨幣のヴェール」とはありがたいもので、売り買いに、地位も名前も入らない。売った、買ったの関係はそれっきり、あとくされがない。市場は実にすがすがしいものなのだ。だが、そのすがすがしさの背後には、暗黙の前提がある。アダム・スミスが描いたように、パン屋は自分が納得いくようにパンを作る。あるいは、どこにいる誰かは知らないけれど、自分の作ったパンを味わう人の喜びを思い浮かべながらパンを作る。価値は消費を通じてこの世に現われ、ものは価値を残して消えていく。このように、匿名で、あとくされのない、すがすがしい市場の背後には、消えゆくものを確かな価値として世に送る、社会的・協同的・創造的な「集まり」としての生産と消費が、前提とされているのである。

だが、現実には、社会的・協同的・創造的な「集まり」としての市場は成り立ちがたい。生産者、あるいは消費者が意図的(反倫理的)に価値を損ねる事件はあとをたたない。そればかりか、生産と消費のプロセスが、既存の制度や組織が用意した「標準パッケージ」(ものやサービス、習慣やお作法を含む)を、単に手渡すだけの装置と化している恐れもある。ここでいう「標準パッケージ」とは、本書で引用されているリースマンの言葉である。その購入は、標準的な生活を滞りなく進行させるうえではこの上なく有効ではあるけれど、例えば、「社会生活のまとまりのなかに、突然開いた裂け目から」(p.118) 見知らぬ現実が進入した場合には、ほとんど役に立たない。そのような場面で人が真に必要なとするものは、「標準パッケージ」には見当たらない。それどころか、それは「標準」から外れた事柄を(新たに生じた必要を言い当てる言葉すらも) 覆い隠す恐れがある。

いまだ流通されていない、けれども、切実に必要とする人がいる事柄を、しかも、同様の状況に置かれれば、他の人も同じように欲するであろう事柄を、生産と消費のプロセスにのせ、価値としてこの世に送りだすためには、いったいどうしたらいいのだろうか。一見、バラバラに見える個人を「集まり」として捉え、その生成・変化、「集まり」間の新たな結合と再編成に着目する本書の視点にそのヒントはある。CEL

### Books : editor's choice

- 『自由と秩序—競争社会の二つの顔』猪木武徳 中公叢書(2001年)
- 『正義の経済哲学—ロールズとセン』後藤玲子 東洋経済新報社(2002年)
- 『経済と倫理—福祉国家の哲学』塩野谷祐一 東京大学出版会(2002年)
- 『経済の倫理学』山脇直司 丸善(2002年)
- 『北欧の消費者教育—「共生」の思想を育む学校でのアプローチ』大原明美 新評論(2003年)
- 『世界を変えるお金の使い方』山本良一、Think the Earth Project ダイアモンド社(2004年)
- 『The Ethical Consumer.』Rob Harrison、Terry Newholm、Deirdre Shaw Sage Publications Ltd(2005年)
- 『トレンド記者が教える消費を読むツボ62』石鍋仁美 日経ビジネス人文庫(2006年)
- 『世代間衡平性の論理と倫理』鈴木興太郎 東洋経済新報社(2006年)
- 『わかる現代経済学』根井雅弘 朝日新聞社(2007年)
- 『消費者行動論体系』田中洋 中央経済社(2008年)
- 『経済学の新しい認知科学的基礎—行動経済学からエマーゲンティストの認知経済学へ』中込正樹 創文社(2008年)
- 『ソーシャル消費の時代—2015年のビジネス・パラダイム』上條典夫 講談社(2009年)
- 『コラーのマーケティング3.0—ソーシャル・メディア時代の新法則』フィリップ・コトラー、ヘルマン・カルタジャヤ、イワン・セティアワン 朝日新聞出版(2010年)
- 『フェアトレード学—私たちが創る新経済秩序』渡辺龍也 新評論(2010年)
- 『「社会を変える」お金の使い方—投票としての寄付 投資としての寄付』駒崎弘樹 英治出版(2010年)
- 『シティズンシップへの教育』中山あおい、森 実、森田英嗣、園田雅春、鈴木真由子、石川聡子 新曜社(2010年)
- 『プレップ倫理学』柘植尚則 弘文堂(2010年)
- 『「分かち合い」の経済学』神野直彦 岩波書店(2010年)
- 『Ethical Consumption : A Critical Introduction』Tania Lewis、Emily Potter Routledge(2010年)
- 『資本主義はどこへ向かうのか—内部化する市場と自由投資主義』西部忠 NHK出版(2011年)
- 『20代からはじめる社会貢献—400社が支援した「社会起業」とは』小暮真久 PHP研究所(2011年)
- 『道の駅—地域産業振興と交流の拠点』関満博、酒本宏編 新評論(2011年)